

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32644

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K17452

研究課題名（和文）臨床看護師の「科学的根拠に基づく実践」のための教育プログラムの評価に関する研究

研究課題名（英文）Evaluation research of Educational Programs for Evidence-based practice among Clinical Nurses

研究代表者

友滝 愛 (Tomotaki, Ai)

東海大学・医学部・特任講師

研究者番号：50621835

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：文献研究では、日本の看護学生・看護師の高等教育における「根拠に基づく実践」の位置づけ、日本語で利用可能なEBPの自己評価尺度の特定、日本の看護分野のEBPとその隣接領域の研究を明らかにした。EBP教育介入の評価指標となるスケールとして「EBP Implementation Scale」「EBP competencies self-assessment」の日本語訳案の評価を行った。EBP教育介入の報告ガイドラインの翻訳、EBP教育介入の教育プログラムの開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の看護分野におけるEBPの系統的な文献研究により、今後日本でEBP研究を行うときに参照可能な知見を体系化することができた。EBPは用語の多義性によって先行研究を特定しにくく、日本のEBP研究の知見をふまえたEBP研究の計画の難しさの課題を改善することが期待される。EBP教育介入の報告ガイドラインの日本語訳は、国際的な基準に基づく論文報告や研究計画の立案に寄与するだろう。EBP関連尺度の評価により、自己評価尺度のバイアスの問題が明らかとなった。本研究で開発したEBP教育プログラムは効果検証の課題はあるが、様々なところで活用可能である。

研究成果の概要（英文）：A literature review identified the current status of "Evidence-based Practice" in the higher education of Japanese nursing students and nurses, self-report instruments to assess EBP available in Japanese, and research on EBP and adjacent areas in the Japanese nursing field. The EBP Implementation Scale and the EBP competencies self-assessment were translated into Japanese as a scale to evaluate an EBP educational intervention. A reporting guideline for EBP educational interventions available in Japanese was opened and some EBP educational programs were developed.

研究分野：臨床疫学

キーワード：Evidence-based Practice e-learning 生涯学習 コンピテンシー 看護師

1. 研究開始当初の背景

科学的根拠に基づく実践（Evidence-based practice、以下「EBP」）は、現代の医療の基盤となる考え方の1つである。看護師の多くは、EBP に対して肯定的に捉えている一方で、EBP の実際の取り組みの頻度が低いこと、EBP に必要な知識・スキルの自己評価が低いことが、先行研究で報告されている。EBP の教育は、EBP を普及するための重要な方法の1つであり、EBP 教育介入研究も多数報告されている。しかし EBP 教育介入研究は、エビデンスの質に課題があり、エビデンスレベルの高い効果的な EBP 教育はまだ明らかになっていない。

本研究に先立ち実施した EBP 教育プログラムの開発（日本学術振興会科学研究費助成事業・研究スタートアップ支援）では、EBP 教育介入の先行研究や既存の EBP 教育の書籍や資料に加え、教育分野の知見を参考に、シナリオベースのディスカッションを主体とした、対面式で実施する EBP 教育プログラムを開発した。この教育プログラムは、前後比較の研究デザインで評価し、定量的なアウトカム評価・行動変容プロセスの評価・プログラム評価を行った。教育プログラムの実施前後で一定の変化はみられたが、教育プログラムの提供方法等の課題も明らかとなった。

そこで本研究では、先行して実施した EBP 教育研究で得られた知見をふまえて、EBP 教育プログラムの修正を行い、その効果を検証するランダム化比較試験を計画した。

2. 研究の目的

本研究では、臨床看護師等の EBP に関する知識・スキルの向上を目的とした「臨床看護師を対象とした科学的根拠に基づく実践のための教育プログラム」の評価を行うことを目的とした。この目的を達成するために、以下の研究に取り組んだ。

- (1) EBP に関する文献研究
- (2) EBP 教育介入の評価指標の検討
- (3) EBP 教育介入プログラムの開発と評価

3. 研究の方法

- (1) EBP に関する文献研究

医学中央雑誌・Pubmed 等を用いて、日本の看護師等を対象とした EBP に関する研究の文献レビューを行った。

- (2) EBP 教育介入の評価指標の検討

EBP 教育介入の評価指標を検討し、Melnyk らが開発した「EBP Implementation Scale」「EBP competencies self-assessment（臨床看護師用・高度実践看護師用）」の翻訳を行うこととした。これらの尺度について、開発者の許可を得て日本語訳し、エキスパートパネルによる評価、および、内容妥当性のするため認知インタビューを計画した。エキスパートパネルは、EBP 研究者、看護管理の専門家、専門看護師、生物統計家等で構成された。認知インタビューの対象者は、病院・訪問看護ステーション等の様々な所属で働く看護師で、高度実践看護師用の評価では専門看護師、認定看護師、博士課程修了者、特定行為研修修了者、診療看護師等、多様な背景をもつ看護師を対象とした。認知インタビューでは、日本語訳案に対する理解度・妥当性・包括性の評価を行った。

- (3) EBP 教育介入プログラムの開発と評価

①GREET E&E 2016 の翻訳

EBP 教育介入研究の研究プロトコル作成の参考にするために、“Explanation and elaboration paper (E&E) for the Guideline for Reporting Evidence-based practice Educational interventions and Teaching (GREET) 2016” について、開発者の許可を得て日本語訳を行った。

②EBP 教育プログラムの開発と評価

本研究に先行して開発したシナリオベースのディスカッションを主体とした対面式の EBP 教育プログラムを見直し、EBP のための文献の批判的吟味を学ぶための 8 トピックで構成される教育プログラムを開発した。これは、教育内容を構造化したワークショップ形式の教育プログラムで、2 日間、対面式で実施するものである。教育プログラムのデモンストレーションを計画した。また、本プログラムの開発者以外でも一定の経験・知識のある者であれば担当可能となるよう、当プログラムの講師・ファシリテーターの担当経験がない者に、デモンストレーションに同行してもらい、ファシリテーターとして参加してもらった。

しかし、本研究期間中に COVID-19 のパンデミックがあり、申請時から研究内容を変更した。まず、ワークショップ形式の教育プログラムは、当初対面式で実施することを前提としていたが、オンラインによるライブ配信による実施方法に変更することとした。さらに COVID-19 のパンデミックの長期化等をふまえ、EBP 教育プログラムを e-learning を用いた教材のオンデマンド配

信へ変更することとした。そこで、新たに e-learning 教材の開発と e-learning システムの構築を行い、その評価を行うこととした。

4. 研究成果

(1) EBP に関する文献研究

EBP に関する文献研究を行い、まず日本の看護学生・看護師の高等教育における「根拠に基づく実践」の位置づけを明らかにした。次に、EBP に関する自己評価尺度のスコوپングレビューでは、日本語で看護師が利用可能な自己評価尺度は9つと少なく、EBP の多面的な側面を評価することが難しい現状が明らかとなった。また日本の看護師・看護学生・看護系教員を対象とした EBP とその隣接領域の研究のスコوپングレビューでは、「エビデンス」「根拠」といった用語を含む文献は多いものの、EBP に関連する用語は様々な文脈・様々な意味で使われており、Sackett らの Evidence-based Medicine に由来する定義とは必ずしも一致しないことが示唆された。なお、このレビューで特定された文献 745 件の書誌情報は、文献リストとしてウェブサイト公開した。以上の3つの文献研究は、国内外の学術誌に採択された（出版済2件、印刷中1件）。

(2) EBP 教育介入の評価指標となるスケールの翻訳

「EBP Implementation Scale」「EBP competencies self-assessment（臨床看護師用・高度実践看護師用）」の日本語訳の素案を作成し、エキスパートパネルを経て修正し、日本語訳案を作成した。日本語訳案の内容妥当性の評価は、10名の臨床看護師の協力を得て実施した。

その結果、これらの尺度には、回答者が EBP そのものや EBP の組織的な取り組みを理解していなければ、回答が難しい用語が多く含まれていることが明らかとなった。その理由として、今回翻訳した尺度が、「エビデンスに基づく実践」の専門用語に加えて、「組織的に取り組む」というアプローチを前提とした内容が多い、「組織として／チームで、エビデンスに基づいてケアの質を改善する」という取り組みを想定した項目で構成されているといった、尺度の特徴が影響している可能性がある。本結果は、2024年度に学会発表を行う予定である（演題採択済）。

(3) EBP 教育介入プログラムの開発と評価

① EBP 教育介入研究の報告ガイドライン GREET2016 の日本語訳、「根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン（GREET）2016 E&E」は看護系専門誌に掲載された。オープンアクセスで公開し、報告ガイドラインの国際的なポータルサイト EQUATOR Network に掲載された。

② EBP 教育プログラムの評価

・ワークショップ版（対面／オンラインによるライブ配信）

2日間の小グループによるワークショップ形式のプログラムを開発し、2回のデモンストレーションを行った。当プログラムの講師・ファシリテーターの担当経験がない者に、デモンストレーションの同行、ファシリテーターとしての参加の協力を得て、教育プログラムの開発者以外でも担当可能であることを確認した。

COVID-19 のパンデミックにより対面式のプログラム実施が困難となったが、デモンストレーションのファシリテーターの経験者に、オンラインによるライブ配信版として同プログラムを提供した。オンラインでも実施可能であること、ファシリテーターの経験者が同教材を使って講師担当が可能であることを確認した。

・E-learning 版（オンデマンド配信）

8トピックで構成したワークショップ版の教材をもとに、e-learning を用いたオンデマンド配信による22モジュールで構成される教材設計・テストの開発、教材制作等を行った。補助教材として、学習内容を概観できる学習マップ、学習者のニーズやレディネスに応じて学習コンテンツを取捨選択するための学習ガイド<学習者用><教育担当者用>を開発し、ウェブサイトで公開した。また、教育教材をオンライン形式で提供するという利点を活かし、e-learning システムで自動的に取得できる学習ログデータを用いて学習量を定量化し、学習量とアウトカムの関連を検討するための方法論を検討した。

E-learning 版の評価を行うため、東海大学医学部臨床研究審査委員会に申請し、承認された。しかし研究対象者のリクルート等が難航し、研究期間中に評価することができなかった。この e-learning 教材を用いた研究を継続するため、新たな研究助成を受けて、現在研究実施の準備中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Tomotaki A , Sakai I , Fukahori H , Tsuda Y , Okumura-Hiroshige A	4. 巻 -
2. 論文標題 Factors Affecting the Critical Appraisal of Research Articles in Evidence-Based Practices by Advanced Practice Nurses: A Descriptive Qualitative Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nursing Open	6. 最初と最後の頁 Early view
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/nop2.1628	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomotaki A, Morioka N, Tsuda Y	4. 巻 -
2. 論文標題 Mapping instruments in Japanese for measuring evidence-based practice among clinical nurses: A scoping review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing Practice	6. 最初と最後の頁 e13086
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijn.13086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友滝 愛(執筆/監修)、深堀 浩樹、津田 泰伸(編集協力)。	4. 巻 第3418号
2. 論文標題 看護師のギモンに応える！エビデンスの使い方・広め方 第1回 Evidence-Based Practice思考でいこう！	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学書院 週刊医学界新聞(看護号)	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 友滝 愛(執筆/監修)、深堀 浩樹、津田 泰伸(編集協力)。	4. 巻 第3422号
2. 論文標題 看護師のギモンに応える！エビデンスの使い方・広め方 第2回 EBPに取り組むための5つのステップ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学書院 週刊医学界新聞(看護号)	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 友滝 愛(執筆/監修). 深堀 浩樹, 津田 泰伸(編集協力).	4. 巻 第3449号
2. 論文標題 看護師のギモンに応える！エビデンスの使い方・広め方 [第9回] EBPの批判的吟味を効率的に学ぶには？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学書院 週刊医学界新聞(看護号)	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 友滝 愛(執筆/監修). 深堀 浩樹, 津田 泰伸(編集協力).	4. 巻 第3459号
2. 論文標題 看護師のギモンに応える！エビデンスの使い方・広め方 [第11回]質的分析によるエビデンスをEBPで活用する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学書院 週刊医学界新聞(看護号)	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 友滝 愛(執筆/監修). 深堀 浩樹, 津田 泰伸(編集協力).	4. 巻 第3463号
2. 論文標題 看護師のギモンに応える！エビデンスの使い方・広め方 [第12回] エビデンスを使う・広める,そしてその先へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学書院 週刊医学界新聞(看護号)	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友滝愛, 津田 泰伸	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 日本の看護学生・看護師の高等教育における「根拠に基づく実践」の記述に関する文献レビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立看護大学校研究紀要	6. 最初と最後の頁 36 - 42
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.34514/00000239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Anna C. Phillips, Lucy K. Lewis, Maureen P. McEvoy, James Galipeau, Paul Glasziou, David Moher, Julie K. Tilson, Marie T. Williams, (翻訳), 友滝愛, 加藤尚子, 柏原康佑, 木戸芳史, 本田順子, 深堀浩樹	4. 巻 53(5)
2. 論文標題 全訳 Explanation and elaboration paper (E&E) for the Guideline for Reporting Evidence-based practice Educational interventions and Teaching (GREET) 2016 根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン (GREET) 2016 E&E	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 228 - 262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1681201768	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 友滝愛, 加藤尚子, 柏原康佑, 木戸芳史, 本田順子, 深堀浩樹	4. 巻 53(3)
2. 論文標題 概説: 根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン (GREET) 2016	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 222 - 227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1681201768	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友滝愛, 津田泰伸, 深堀浩樹.	4. 巻 29
2. 論文標題 特集 [事例紹介 はじめに] エビデンスやデータに基づく質改善活動 専門看護師の活動を紐解き現場に活かそう.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 227-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友滝愛, 津田泰伸, 深堀浩樹.	4. 巻 29
2. 論文標題 特集 [特集のまとめ] 臨床看護師の「看護研究」を「ケアの質改善」につなげるための提案.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 252-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友滝 愛, 小玉 淑巨, 二見 朝子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本の看護師・看護学生・看護系教員を対象としたEvidence-based Practiceとその隣接領域の研究を特定するプロセス及び研究の特徴：探索的スコーピングレビュー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 (印刷中)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Tomotaki A, Kodama Y, Futami A
2. 発表標題 Methodology for searching and screening the studies on evidence-based practice in Japanese nurses: A pilot test for scoping review
3. 学会等名 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomotaki A, Sakai I, Fukahori H, Tsuda Y
2. 発表標題 Process of integrating research evidence into practice by certified nurse specialists in Japan: A qualitative study
3. 学会等名 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 友滝 愛
2. 発表標題 実践と研究の往還 - エビデンスを使う、広める、どう変わる：臨床での迷いや悩みを一步先へ - Evidence-based practice思考でいこう！
3. 学会等名 千葉看護学会 第28回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 友滝 愛, 酒井 郁子, 津田 泰伸, 深堀 浩樹
2. 発表標題 専門看護師の「根拠に基づく実践」のための 文献の批判的吟味に関する教育プログラムの評価
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 友滝 愛
2. 発表標題 エビデンスに基づく実践を組織に根付かせるには？
3. 学会等名 エビデンスに基づく教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 友滝 愛
2. 発表標題 EBP思考でベストプラクティスを探究しよう！ - リサーチエビデンスの読み方・使い方・学び方（アカデミックセミナー）
3. 学会等名 第17回 日本クリティカルケア看護学会 学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 友滝愛, 酒井郁子, 奥村朱美, 津田泰伸, 深堀浩樹
2. 発表標題 専門看護師の「根拠に基づく実践」のための文献の批判的吟味とその学習に影響する要因（07-03）
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津田泰伸, 森岡典子, 友滝愛
2. 発表標題 日本語で利用可能な看護師の「根拠に基づく実践」の自己評価尺度：スコーピング・レビュー（P26-003）
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 友滝 愛, 小玉 淑巨, 深堀 浩樹
2. 発表標題 EBP competencies self-assessment 日本語版（看護師用・高度実践看護師用）の内容妥当性の評価：認知インタビュー
3. 学会等名 第11回日本CNS看護学会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

1. 文献リスト：日本の看護師・看護学生・看護系教員を対象としたEvidence-based Practiceとその隣接領域の研究（無料ダウンロード可） https://researchmap.jp/aitomotaki/works/45565899
2. 週刊医学界新聞・連載「看護師のギモンに応える！エビデンスの使い方・広め方」 https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/series/197
3. EBP Research News（EBPの研究等に関する情報ポータルサイト） https://ebp-research.themedia.jp/
4. Explanation and elaboration paper (E&E) for the Guideline for Reporting Evidence-based practice Educational interventions and Teaching (GREET) 2016 根拠に基づく実践の教育的介入と 教育の報告ガイドライン（GREET）2016：E&E https://www.equator-network.org/library/translations-of-reporting-guidelines/#Japanese
5. Evidence-based Practice for Nurses (EBP教育介入研究・研究ウェブサイト) https://ebpns.org/

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	深堀 浩樹 (Fukahori Hiroki) (30381916)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	津田 泰伸 (Tsuda Yasunobu)		
研究協力者	小玉 淑巨 (Kodama Yoshimi) (00803230)		
研究協力者	二見 朝子 (Futami Asako)		
研究協力者	森岡 典子 (Morioka Noriko) (70805746)		
研究協力者	柏原 康佑 (Kashiwabara Kosuke)		
研究協力者	本田 順子 (Honda Junko) (50585057)		
研究協力者	木戸 芳史 (Kido Yoshifumi) (70610319)		
研究協力者	宮内 絢子 (Miyouchi Ayako)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	上村 夕香理 (Uemura Yukari) (80548537)		
研究協力者	清水 陽一 (Shimizu Yoishi) (50791935)		
研究協力者	政岡 祐輝 (Masaoka Yuki)		
研究協力者	柏木 公一 (Kashiwagi Kimikazu) (20334378)		
研究協力者	岡崎 善弘 (Okazaki Yoshihiro) (00725997)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関